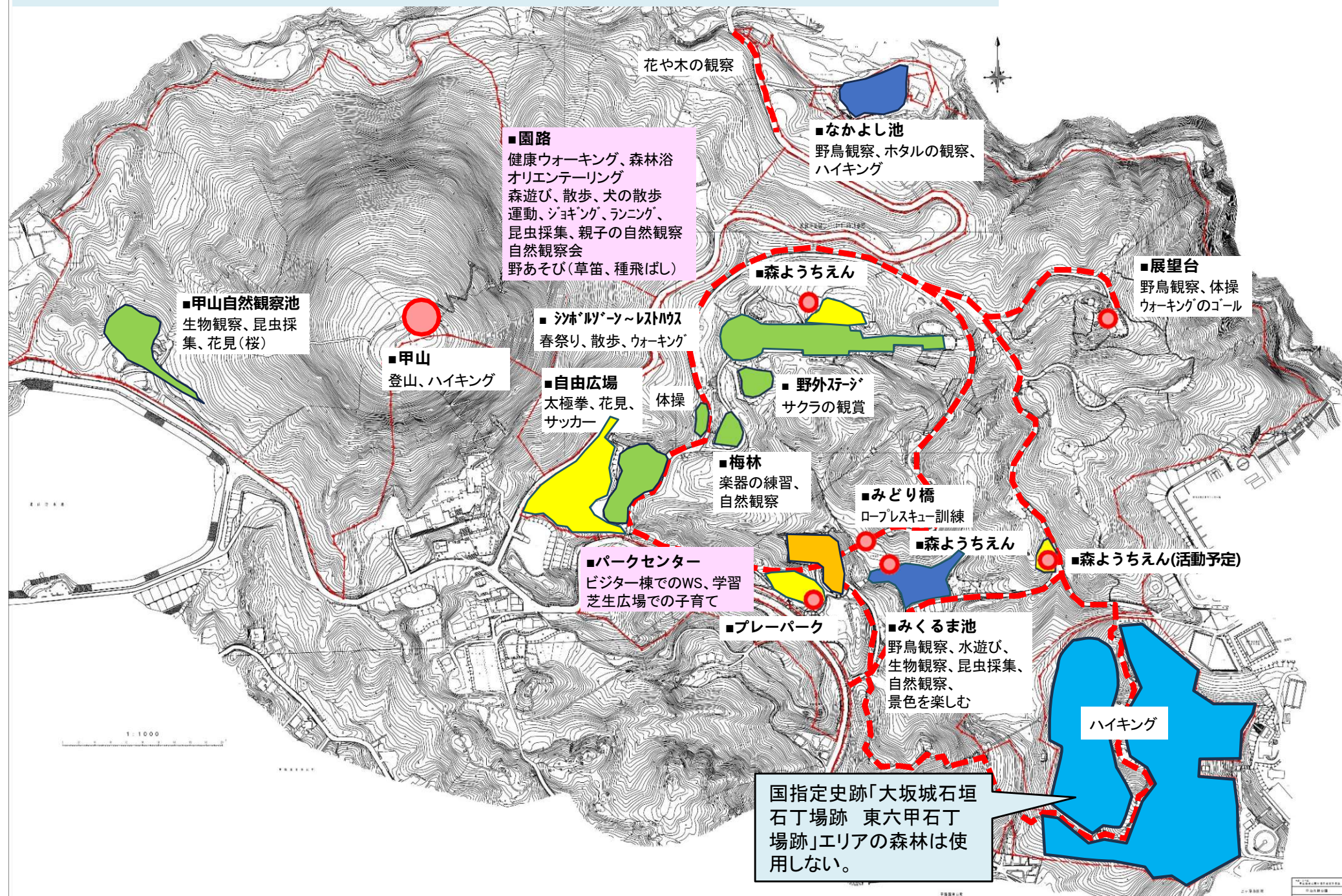


ゾーニング図B (森の使い方プラン「これからの使い方」)

**令和7年6月24日
兵庫県まちづくり部公園緑地課**

3つの新たな使い方を提案

- ① 試験的な入会地、もりあそびの場の設置 (■ゾーン)
- ② 五感体験や森林浴、自然観察ポイント等を示した看板の設置 (園路)
- ③ 文化祭など、多様な主体が情報交換できるイベントの開催 (パークセンター周辺)



【参考】 森の使い方プラン 「森の使い方の方向性」

[基本方針1] 適度に手を入れる森づくり（入会地づくり）と、森林資源の楽しい使い方の実践

試験的に手を入れる場所を定め、手入れと活用を多様な主体の参画のもとで進める。
また伐採した木竹などの活用方法を検討・実験的に実施する。

【事業例】 ○ 森の手入れと樹木活用

- ・ 伐採木を活用した体験：グリーンウッドワーク、アロマ、草木染め、クラフト
薪づくりとその販売、焚火エリアの設置とそこでの活用など
- ・ 伐採木による環境整備：サイン整備、楢木や虫の家づくり
- ・ 淡竹を用いた玩具づくり、淡竹の採集と食体験、七夕イベントなど

○ 担い手

- ・ KSCとの連携を通じた森の手入れ、多様な主体の参画
- ・ 森のようちえんやプレーパークでの活用、学生やNRJAPANなどとの連携

[基本方針2] Well-beingな森づくりの実践

来園者の身体的、精神的、社会的健康の回復が得られるプログラムを展開するとともに、生き物にとっての生態的な回復・環境管理や創造も目指す。

【事業例】 ○ 自然観察と健康体験が融合した五感体験プログラムの実践

- ・ セラピーロードのルートづくりや、森林浴エリアとそこでの体験づくり
- ・ 森林セラピーガイドによるリトリートイベント、企業向けプログラムの企画

○ 福祉団体との協力による多様な特性を持った子どもたちの支援

○ バリアフリー化、インクルーシブ化の推進

- ・ 電動車椅子の貸出とパークガイドツアー、障害特性に応じた楽しみ方の提供
- ・ インクルーシブ遊具の整備、インクルーシブプレーパークの実践

○ 多彩な生態修復・自然体験プログラムの実践

- ・ 草地エリアの活用、伐採木を積むような場所（人の利用、生物による利用）
- ・ みくるま池北側：子どもたちの遊び場、水辺の生き物観察ができる場づくり
- ・ タネや実生苗を用いた森づくり
- ・ 観察小屋の設置（みくるま池）

【参考】 森の使い方プラン 「森の使い方の方向性」

[基本方針3] 子どもからお年寄りまで楽しめる「もりあそび」の実践

子どもだけでなく親やお年寄りなど、すべての世代が楽しめる遊びプログラムを実践する。イベント型の遊びだけでなく、日常の遊びを支える仕掛けもいろいろ考える。

【事業例】 ○ 自然体験プログラムの実践

- ・ 専門家によるお散歩イベント、季節の木の実やキノコを探しながら探検
- ・ バードウォッチング、花笛、種笛
- ・ ウォークラリーやオリエンテーリング
- ・ 補虫網のレンタル、昆虫観察
- ・ 駅から公園までの楽しみスポットづくり

○ 環境イベントの実践

- ・ 森林コンサート（薬師寺寛邦など）、音楽や食のイベント
- ・ 森のおみせやさん：どんぐりをお金に見立ててお買い物体験

○ 巨石など歴史資産を活かしたプログラムの実践

- ・ 大阪城石垣の名残がわかるイベント

[基本方針4] 多様な来園者の交流促進と利用の情報発信

文化祭など多様な主体が参加できるイベントの開催を検討します。スポーツ利用者や近隣住民などにも参加を促します。また、学生や企業などとのコラボ企画もより活発化させていきます。

【事業例】 ○ 来園者のSNS拡散を推進する仕掛け

- ・ ランナー、バードウォッチャー、昆虫観察者など、ターゲットを絞った情報発信
- ・ 同好者のつながりづくり
- ・ 森の文化祭：どんな利用がどこでされているか互いに知ってもらう仕組み

○ 自然環境情報の収集と発信

- ・ 自然環境情報リアルタイムに発信（イノシシ出没情報、開花情報）
- ・ 来園者から情報を収集する仕組みづくり

○ 多様な主体の参画

- ・ 学生コラボ（学生主体の活動）
- ・ 企業コラボ（MUJI、アウトドア、アパレル..）